

## 第4回情報共有基盤推進委員会 議事概要

### 1. 日時・場所

2016年3月7日（月）16:00～18:00

経済産業省114各省庁共用会議室（別館1階114室）

### 2. 委員等

委員長

須藤 修 東京大学 大学院 情報学環・学際情報学府学環・教授  
(欠席)

委員

武田 英明 共通語彙基盤ワーキンググループ 委員長  
国立情報学研究所 情報学プリンシップ研究系 教授

橋田 浩一 一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）  
ビッグデータ工学専門委員会 委員長  
東京大学大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究センター 教授

林 史典 文字情報基盤ワーキンググループ 委員長  
聖徳大学/聖徳大学短期大学部文学部文学科 教授  
人文学部長/人文学部日本文化学科長

伏見 諭 一般社団法人情報サービス産業協会（JISA）標準化委員会 委員長  
合同会社ソフデラ 代表

(委員 50 音順)

### 3. 議事概要

須藤委員長急病による欠席のため、司会をIPA田代が行なった。

#### 3.1. 開会挨拶（経済産業省平本 CIO補佐官）

関連する事業については順調に進んでいる。今後の方針を含めてご意見をいただきたい。

#### 3.2. 政府の取り組み状況について

資料1に基づき、文字情報基盤も共通語彙基盤の政府の取組みについて、計画に沿って順調に進んでいることを説明。

「電子行政分野におけるオープンな利用環境整備に向けたアクションプラン（2014

年4月25日)」を改定し、JIS X 0213を電子行政で用いる文字のセットとして推奨する予定である。同アクションプランで提供するとされた「縮退マップ」は、文字情報基盤事業の成果として提供されており、JIS X 0213への対応が可能である。

経済産業省の取組みとしては、共通語彙を利用して法人ポータル(仮称)サイトを構築中、また、体験学習を紹介する情報についてテンプレートの試行を実施した。今まで各省庁で、異なる書式、異なる表現で提供していた情報も、共通語彙基盤を活用することで、書式が整理され、同内容の複数情報を一つにまとめることが可能となり、利用者にとって見やすく活用しやすいデータになることが具体的になってきている。今後も各省庁での導入が増えることが見込まれる。

### 3.3. 事業進捗状況について

#### 3.3.1. 資料2に基づき文字情報基盤の進捗状況を報告

漢字の標準化では、全ての文字がISOの作業部会での処理を完了し、投票処理の段階となった。変体仮名については、国際的な意見聴取も含んだパブコメを経てISO/IEC JTC1/SC2会議で国際提案、まもなく投票に入る。

「縮退マップ」は、検証版を公開後、正式版を公開。国税庁の法人番号公表サイトのデータを構築する際の縮退処理に活用されたほか、IPAの提供する簡易検索サイトでは、マイナンバー配布開始10月頃から利用者が増加。

昨年度から構築中の文字情報データベースは、10月からシステム検証を実施、2016年度には公開予定である。今後は利用者の意見を反映した改善を検討していくたい。

#### 3.3.2. 資料3に基づき共通語彙基盤の進捗状況を報告

コア語彙を簡便に使える様、ツール「表からRDF」を構築、公開した。又、今までパイロットシステム等で仕様検討を行っていた「情報連携用語彙データベース」の構築を開始する。

一般社団法人日本データマネジメントコンソーシアムから、共通語彙基盤が評価され、データマネジメント特別賞が授与された。

コア語彙公開からちょうど1年を経たところであるが、共通語彙基盤を活用してオープンデータを整備する地方自治体が増えている。

#### 3.3.3. 資料4に基づき、「相互運用性検討サブワーキンググループ」設置について、当委員会の下部組織「共通語彙基盤ワーキンググループ」から提案

文字情報基盤と共通語彙基盤については、政府内での導入フェーズに入ってきた事から、各府省担当者が具体的なシステム導入に係る経験や課題を情報共有する場が必要。「政府情報システム刷新等ワーキンググループ」の下にSWGという形で設置してはどうかという提案があり賛同された。当委員会からの提言として電子行政分科会へ提出することについて、出席者及び委員長(会場から電話にて確認)からの了承を得た。

### 3.4. 2016 年度事業方針について

資料 5 に基づき、2016 年度の事業方針について説明。

### 3.5. 質疑・応答

- 法人ポータル(仮称)は現在公開されているのか。
  - 現状、経済産業省内で試験中だが、4 月には一般公開する予定。
- 法人ポータル(仮称)は、登記されている情報は全てが対象か。
  - 全てである。補助金や表彰の履歴などの信用情報となる情報も確認できるので多くの人に利用いただけると思う。
- 語彙のかなや濁点などの処理について
  - 技術的には語彙基盤で検討し、「文字の入力制限の定義」等として提供していきたい。
- 代替文字の運用について
  - 今後文字情報基盤に係る委員会で検討していきたい。
- 共通語彙基盤の民間活用について
  - 来年度新たに設置予定の SWG などで議論していきたい。
- 表から RDF について
  - 項目名をプルダウンで選択、結び付きを手で行う簡易的なものだが実用性のあるツールである。
  - 表形式データからデータ構造を作成することが出来る。作成したデータ構造は共有が出来るので、ライブラリーとして提供し、利用者が自由に取り込むことが可能。

### 3.6. 閉会

次回は 2016 年度末（2 月中）を予定。

以上